

「^{おかもと たけし}岡本 猛 展 ～新古・生滅～ 」ギャラリートーク

平成 28 年 8 月 27 日 (土)

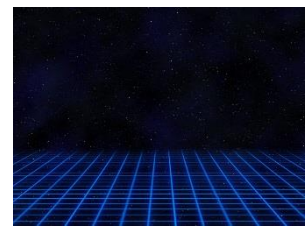


はじめに、自分はどのようなタイプの絵描きなのかをお話します。絵にもいろいろありますが、自分は本物そっくりに描くリアリズムを追求するタイプではありません。こう言われると「え？」と思う方もいるかも知れませんが、私の絵は、マンガの延長線上としての絵画と言ってよいと思います。

ある日私は、一人の生徒に「センスがいいね。」と声をかけました。するとその生徒はこう言いました。「私のセンスが人より優れているというより、自分の好きな一つ一つの絵や映画、音楽がたくさん積み重なって、私のセンスが形づくられています。素晴らしいのは、その一つ一つの作品であり、それを創造した作者のセンスだと思います。」高校2年生の女の子がこんなことを私に言うのです。当たり前と言えばそうですが、この言葉に私はとても共感しました。

そこで自分を振り返り、どんなものに影響を受けているか考えてみると、まずはマンガやアニメ、映画などの影響を強く受けています。例えば、銀河鉄道999、北斗の拳、それからスターウォーズですね。後でまたお話しますが、こういった作品たちとの出会いが、私自身の絵に大きな影響を与えていくことになります。

私が絵を描くきっかけになったのは、高校生の時、金子剛先生と出会ったことです。それは1枚の読書感想画から始まりました。私は芥川龍之介の「羅生門」の絵を描いたのです。たいして中身は読んでいなかったと思います。それはどんな絵だったかと言いますと、壊れた古い門に、CG映像などでよく見るグリッド線を取り入れたものでした。するとそれを見た金子先生が「古いものと新しいものとの組み合わせが面白い！なかなかそんな発想は出てこない。」とおっしゃいました。その言葉にのせられて、私は本格的に絵を描き始めることとなりました。そしてこの金子先生との出会いが、黄美会（小城高校美術部OB会）、佐賀大学特美、鹿島美術人協会、東光会佐賀支部の緑光会とつながっていき、自分の世界が広がっていきました。



※グリッド線

では今回の展示タイトル「新古・生滅」とは何なのかお話をします。「相反するもの」「ま

まったく関係がない2つのもの」を組み合わせることにより、今まで見たことのないような新しいものを創り出すことができる、ということです。私が影響を受けてきたものもそうです。例えば銀河鉄道999は、SL機関車と宇宙を題材にしています。また、北斗の拳は古い中国拳法と近未来の世界の姿を組み合わせています。そしてスターウォーズは、オペラと宇宙を組み合わせた舞台です。このような考え方は、20世紀初めの前衛芸術運動「シュルレアリスム（超現実主義）」からきています。現実を超えた世界を、絵画や文学の世界に取り入れました。もっと簡単に言うと、絵画（文学）に夢の世界を取り入れたようなものです。これは後に、マンガやアニメーションにも大きな影響を与えました。シュルレアリスムの代表的な作品がスペインの画家、ダリの「記憶の固執」です。ちなみにダリと言えば、ピンと伸びた口髭が特徴です。チュッパチャップス（アメリカの棒付きキャンディ）のロゴをデザインしたことでも知られています。

シュルレアリスムの手法の一つに「デペイズマン」があります。意外な組み合わせを行うことによって、受け手を驚かせることです。ろうそくから水が湧きあがっていたり、ガスコンロから水が湧き出していたり、普通は「火」であるものに、あえて真逆の「水」を用いる。このような意外な組み合わせが、受け手を驚かせます。例えば、マンガやアニメの場合でも、ねずみ+人間と言えば、何を思い浮かべますか？「ねずみ男」や「ミッキーマウス」ですね。魚+女の子と言えば、「崖の上のポニョ」や「人魚姫（アリエル）」を思い浮かべます。これらも「デペイズマン」の発想です。

しかし「デペイズマン」的発想はシュルレアリスム以前の昔から実は存在しました。人間+ライオンと言えば、古代エジプトのスフィンクスがそうです。また、人間+鳥と言えば、ルーブル美術館の「サモトラケのニケ」の彫像があります。

日本でも、古くからデペイズマン的な考え方が存在しました。平安・鎌倉時代の「鳥獣戯画」は蛙やうさぎがまるで人のように描かれています。天狗は、人間と鳥を融合させたものです。また、興福寺の八部衆の1つ「五部浄像」は、人間と象が組み合わさっていて大変面白いと私は感じました。

ここで、東洋と西洋をデペイズマン的発想で融合させ、独自の世界を創り上げた例を紹介します。1982年公開の近未来を舞台にした「ブレードランナー」という映画で、日本の「強力わかもと」のCMがビル街に映し出されているワンシーンがあります。この映画を見たとき、その世界観に衝撃を受けました。東洋と西洋が融合した見たこともない近未来の風景。鳥肌ものでしたね。他に、2004年公開のアニメ映画「イノセンス（押井守監督）」の都市デザインや「スターウォーズEP2」のファッションデザインでも、興味深い独自の世界が創造されています。



作品『生命〜刻〜』

さて、そろそろ自分の作品について解説したいと思います。これは、今回の展示作品『生命〜刻〜』ですが、女性とタツノオトシゴ・古い時計・珊瑚を織り交ぜて描いています。全く関係がないものを組み合わせた、デペイズマンの影響を受けています。

最近私が影響を受けている作家さんですが、加茂克也さんという、ヘアースタylistさんがいらっしゃいます。頭の上に、クリップのチェーンを巻きつけたり、大胆に鳥の羽を乗せています。日常では考えられない状態が、おもしろさを生み出します。私は広告やCMにも影響を受けます。最近では、エナメルパールという歯磨き粉の広告が印象的でした。女性の姿の全体は白で、頭にはパールを巻きつけ、歯磨き粉の粒を表現している。歯磨き粉のイメージを打ち破るすごくおしゃれな広告だと思います。『生命〜刻〜』は、女性の頭と何かを組み合わせるという発想によって生まれた作品です。

この『生命』という作品には、女性とシダや白サギを描きました。シダ植物を描いているのは、子孫繁栄を意味する、私の好きなモチーフだからです。ドイツの植物学者で写真家のカール・ブロスフェルトの作品に強く惹かれて、人物の背景に植物を描くようになりました。



作品『生命』



作品『日傘の人』

2013年に制作した『日傘の人』はみなさんもよくご存じの映画「風立ちぬ」のワンシーンが発想のもとになっています。宮崎駿監督は、このシーンのある有名な作品にインスピレーションを受けて創り上げたと聞きました。日傘と女性と言えば、有名なモネの「日傘をさす女」ですね。

足元の植物は、酒井抱一の「夏秋草図屏風」の影響を受けています。

この作品は墨を多く使っています。妻が書道家という影響もありますが、墨を用いることで、また新たな表現ができます。「バガボンド」の井上雄彦さん、墨絵アーティストの西元祐貴さんの作品も、大変参考になります。自分が一番好きな絵は墨のみで描かれた長谷川等伯の「松林図屏風」です。萩耿介の著作「松林図屏風」では、この作品について「この世あらざる絵」という表現がされています。能の幽玄の世界にも通じる世界を、墨で表現できたらと思っています。

次にモチーフについて。「なぜ蝶を描くのですか？」とよく聞かれます。それは「スワロウテイル」という映画の影響を受けています。映画自体はあまりよく覚えていませんが、映画のパンフレットの蝶の絵がとても美しいなと思いました。女性の胸元に蝶が描かれているのを見て、蝶が女性の体の一部になったようで斬新だと思いました。美しいフォルムを持つ蝶は、自分に様々なインスピレーションを与えてくれます。



会場の様子

絵を描く上で、私は琳派の影響をものすごく受けています。琳派はその斬新さ、平面性、装飾性、そして余白の美が重視されています。「余白」とは「要白」とも言われます。何も描かれていないが、意味をもつ空間のことです。この「余白」ならぬ「要白」が絵には大切なことであると思います。インテリアデザインで家具も壁も何もない空間のことを「ネガティブスペース」と言いますが、インテリアの中にもこれを意識してデザインすることが大切であると言われていています。日本人は特にこの「余白」に敏感なようで、落語などでも「間」がとても重要視されているように思います。自分の絵の中に、いかに「間」を取り入れるかが今後の課題です。

私は「ただの空想画ではだめだ。」という忠告を受けることがあります。確かに私は、本物そっくり描く、リアリズムの絵描きではありません。しかし、美は細部に宿ることから、物を観て描くことも大切です。そこで自身の絵に説得力をつけるため、県内各地を妻と一緒にまわり、現場でスケッチをしています。展示されている「葉隠研究スケッチ紀行」の原画がそれです。



※背景に箔を使用



※描く対象に箔を使用

最後に技法についてですが、画材も東洋と西洋を織り交ぜています。東洋的な材料として銀箔、墨、和紙、柿渋、胡粉。また、西洋的な材料としてアクリル絵の具、ボローニャ石膏を使っています。

当初は背景に箔を使用していました。光琳の作品ももちろんそうです。しかし近年は、その発想を逆転して、人物などの描く対象に箔を使用するこ

とが増えました。実際は、琳派の先駆者、俵屋宗達がすでにその技法を用いていました。

まとめになりますが、アーティストというのは、「今この世に在らざるもの」を見せてくれる存在であると思っています。この世に存在しないものを新たに創造する。そういう気構えで絵を描いていますし、そんな作品を創り出すことが目標です。

◆参加者からの質問

先生がどんな作品から影響を受けているのか、絵を描く上でどのようなことを大切にされているかがとてもよくわかりました。実際に絵を描く際には、日常の中でどのようなタイミングでインスピレーションが舞い降りてくるのでしょうか。

“岡本さんより”

「最近は色々な発想があまり出てこなくなりました。若い時はたくさん思い浮かびました。昔はよく映画も見ていましたし、コンサートにも行っていました。歳をとるごとに時間がなくなってきたのもあって、刺激が少なくなりました。ただ、常にアンテナを張って、様々なことに目を向けることは大切かなと思っています。」



【 前期展示の様子 】